

I .2016年民医連QI公開・推進事業の取り組みと特徴について

1. 全日本民医連「医療・介護活動の新しい2つの柱」と「QI推進事業」の位置づけ

全日本民医連QI公開・推進事業(以下「QI推進事業」)は、2011年から開始して6年間の取り組みになります。「QI推進事業」の目的は、「民医連QIロゴマーク」に示されています。質を評価する三つの側面(Structure、Process、Outcome)を円で表し、中央に「QI」を置き、特にProcess評価がQIの中心となる意を込めて、Processの円を最前面に大きく配置しています。そして、土台に当たる位置に「Min-iren」と記し、組織として広く取り組み支えて行くことをシンボライズしています。「QI」は、Quality Indicator・Improvement(医療の質指標・改善)の略称です。特に、QIを通じた改善は、「QI自体の改善」(精度管理、回収率、独自指標の設定等)、「QIによる医療の改善」、「QIによる民医連諸活動への貢献と改善」(チーム医療・経営・安全などの職員教育、民医連への信頼を高めること等)をめざして重要な基盤を作り成果を上げ始めています。

7年目を迎えた「QI推進事業」は、①QI 指標の開発・設定と測定、②測定分析と公開の継続、③質向上・改善の事例の蓄積、④精度の高い数値と ICT(IT)活用、⑤QI 担当者の配置や交流・研修、⑥QI・Webシステム(集約・分析・公開)の開発・機能強化、⑦職員への浸透などを推進してきました。また、外部評価委員や厚労省事業評議会議の援助・指導をえて、民医連病院の 91 病院(141 全病院)や保険薬局に広がっています。

特に、「QI推進事業」の実践・成果は、全日本民医連第42期運動方針(2016年3月)の「医療・介護活動の新しい2つの柱」に位置づけられており、「QI推進事業」の広がりと発展が求められています(第1の柱である「貧困と格差、超高齢社会に立ち向かう無差別平等の医療・介護の実践」を裏付ける「安全、倫理、共同の営みなど総合的な医療・介護の質の向上」)。成長を続ける組織は、自らの評価を組織のシステムに組み込む必要があり、QI事業・活動は、その重要な基盤の1つです。

2. 2016 年 民医連QI推進事業の主な特徴と取り組み

1) 「民医連QI 指標 V.3」の測定と改善の蓄積－職員への「見える化」の工夫

2016年は、「民医連QI指標V.3」に基づき新たに体系化して測定開始しています。「民医連QI指標V.3」の解説は別紙をご覧下さい。

2016年報告は、昨年の「全病院指標」と「DPC指標」の2分冊報告から「民医連QI推進事業詳細報告書」に変更し指標の体系的な位置づけや関連性を見易くしています。また、指標数の増加(特にDPC指標)に伴いかなりのページ数になるので、「詳細版」と合わせて「概要版」を作成し職員への「見える化」の工夫を行っています。また、2016年報告のPPT版も作成し詳細版や概要版の閲覧を推進していきます。

2) 2016年民医連QI推進事業研修会の開催－重要なロールモデル

2016年民医連QI推進事業研修会(7月30日)を開催し、35県連から61事業所114名が参加しました。今回は、講演「QIデータを改善に活かす為に」(講師:小林美亜氏・千葉大学医学部附属病院教授)が行われ、その「QIストーリー」は、まさに「QIステップアップ」の根幹を具体的に示す講演になりました。また、QI委員の報告は、「QI報告書」をどのように活用して病院の改善にいかしていくか、下越病院と埼玉協同病院の実践報告(病院全体としての仕組みと具体的な実践の姿)は、「QIステップアップ」の3つの課題の具体化のロールモデルを示すものでイメージアップにつながりました。

3) 2016年QI推進事業参加病院アンケートの実施－35 指標・186 改善事例

2016年「QI推進事業」の参加病院アンケートを11月に実施し、多くの参加病院では、管理部・職責者会議・医局・各種委員会などに測定結果の報告を行い、職員への浸透をめざしてQIニュースを発行しています。

この一年間の改善事例は、例えば「24指標:ケアカンファレンス実施割合」では、「『在宅復帰、退院支援の取り組みを他職種チーム医療で強化する』という今年度目標の評価指標として、管理部会議で活用している」など、35指標にわたり、186の改善事例が寄せられています。詳しくは、指標毎考察にある「改善事例」を参照下さい。

また、職員からは、「他の病院との比較があると自分たちのやっていることの振り返りを再評価することができた。また、QI事業により『改善する必要があるのでは?』という意識が生まれた」「医療の質を表す指標であることを職員が熟知し、自信を持つことの必要性が理解され始めた(多数)」、「実際のデータを見せて改善の必要性を伝えやすくなった。報告後にデータの内容について知りたいと連絡がくることもあった」「病院間のグラフを比較してみて、当院の位置が右端・左端にある項目は特になぜ高いのか(低いのか)の疑問を持ち、定義や算出方法・さらなる分析調査へのきっかけとなった」「QIニュースを発行することで、QIとは何かが理解できた。各チームの活動がよく見えるようになった」などです。一方、中小病院の現状を反映し診療情報管理体制の改善や新規参加病院からは、指標の定義・解釈への質問等が寄せられています。参加病院の取り組みのレベルの相違も出ており、特に新規病院や一人兼任体制の病院への対策が求められています。

4) 「医療指標Webシステム」の改善—ダッシュボード・ベンチマーク機能の追加

2011年の民医連QI推進事業開始から、「医療指標・Webシステム」の改善を積み重ね、入力・分析画面などの機能強化を行い、医療の質の改善・向上に活かされると参加病院から好評です。2016年は、指標数の増加や5年間実践を踏まえ、「病院毎ダッシュボード」「病院毎及び全参加病院の全指標ベンチマーク一覧機能」を追加し、現場で全体

の傾向を一層「見える化」する工夫を開始しています。詳しくは、別紙をご覧下さい。

5) 「QI指標の測定方法の留意点と改善の事例集V.1」と「医療指標の定義と解釈－Q & A集」発行

参加病院に「未測定QI指標の改善調査票」を実施し、個別病院の問題もありますが、多くの病院の測定困難な指標は、新規指標やいくつかの特定指標に共通していることなどが改めて具体的に明らかになりました。その調査を踏まえ、15指標について、その改善のために測定の方法や集計する仕組みづくり、改善事例などを参加病院に紹介する「QI指標の測定方法の留意点と改善の事例集V.1」を作成しました。参加病院へ配布し、指標測定や指標分析・改善の取り組みの推進に活かしてもらっています。

また、「QI推進事業」の「医療指標の定義と解釈－Q & A集」V. 6-1～6-4及び7-2を発行し、参加病院からの問い合わせとその返答を共有化しています。

6) 平成28年度厚労省推進事業の採択・中間評価と第66回日本病院学会シンポジウムの発表

全日本民医連は、厚労省推進事業に平成23年度から平成28年度で5回採択されています。「平成28年度医療の質の評価・公表等推進事業」に係る民医連の中間評価結果は、①「外部評価の意見を十分にフィードバックしつつ、指標の活用がすすみ始めている点は、注目できることと思う」「着実にデータの集積と分析、発表による情報提供、ニュースレターによる情報発信など、団体の規模を活用した情報の共有が進んでいる」「団体として、日本の医療・介護の質を高めるという目標を共有し、そのための取り組みを進めようとする姿勢、施設毎の特徴を生かした取り組みを奨励するシステムが素晴らしい」、②「指標が充実している」「大学の研究者等と連携し、国際的にも対応できる指標群となっている」「高齢者の内服処方薬の減薬や、薬剤関連事故発生率の改善など、医療安全に配慮した薬の取り扱いは高く評価できる」、③「新規参加病院に対する啓発を進めいく必要がある」「規模の小さな病院では、電子的・半自動的にデータを収集するのが難しいため、診療情報管理士の負担が大きい」「内容が豊富になりすぎ、理解・活用が難しくなる可能性はないか」、④「今後、さらに、QI分析に関わる、診療情報管理士、医療情報システム担当者などの育成をすすめ、継続的なQI体制を先駆的にすすめて頂きたい」「アカデミアと協力のもと行っていることを踏まえると、学術論文などの作成も考えてほしい」などコメントを頂きました。

また、2016年6月に開催された第66回日本病院学会のシンポジウム「QIを用いたアウトカム評価」では、全日本民医連QI委員会が、「QI活動のステップアップ－民医連QI公開・推進事業の5年間の取り組みから」を報告し討論に参加しました。

3. 新たな段階のQI活動の前進へ－第1回全日本民医連QI推進士セミナーの準備

2016年からは、この5年間のQI事業の取り組みと成果

を踏まえて、次の「ステップアップの三つの課題」を取り組んでいます。特に、「全日本民医連第1回QI推進士セミナー(2017年7月22・23日)」の具体化を進めています。民医連QI推進士は、民医連のQI事業を担う(各病院でQIを推進する)スペシャリストであり、医療の質を可視化する指標を設定・測定し、適切にフィードバックできる能力を有する人材です。セミナーの獲得目標と企画内容は、Step 1 [質の指標(質を測る)を設定し運用する力]、Step 2 [フィードバックに必要なスキル]を柱に講義と演習を組み合わせて実施します。

<QIステップアップの三つの課題－育てるQI推進事業>

1. QI指標の充実・体系化と質向上・改善の事例の蓄積
2. 精度・分析力と報告率の向上－QIシステムの機能強化とICT活用
3. QI担当者(診療情報管理士)の配置・養成とQI活動の職員への浸透－病院管理部のリーダーシップの発揮

【2016年度の主な活動】

- 5月2日(月)「民医連QI推進事業2015年年間報告書」及び「DPC病院等QI推進事業2015年年間報告書」の一般公開(全日本民医連HPアップ)
- 5月21日(土)第1回QI委員会(第1回医療指標評価委員会)の開催
- 5月21日(土)「民医連QI推進事業・指標の定義解釈Q & A.V6-3」の更新
- 6月23日(木)日本病院学会「QIシンポジウム」発表
- 7月30日(土)第2回QI委員会(第2回医療指標評価委員会)の開催
- 7月30日(土)2016年QI推進事業研修会の開催
- 8月2日(火)「民医連QI推進事業2016年第1四半期報告書」の一般職員公開(全日本民医連職員HP)
- 8月15日(月)「民医連QI推進事業・指標の定義解釈Q & A.V6-4」の更新
- 9月28・29日 日本医療機能評価機構「医療クオリティーマネジャー養成セミナー I」への参加
- 9月26日(月)第1回QI事務局会議の開催
- 10月27日(木)「未測定QI指標改善調査」の実施及び「個別病院の測定指標一覧表」の作成の自動化とその参加病院への報告
- 11月19日(土)第3回QI委員会(第3回QI医療指標評価委員会)の開催
- 11月25日(金)「民医連QI推進事業2016年アンケート」の実施
- 12月1・2日 日本医療機能評価機構「医療クオリティーマネジャー養成セミナー II」への参加
- 12月19日(月)「QI指標の測定方法の留意点と改善事例集V.1(案)」の作成
- 12月20日(火)「民医連QI推進事業2016年上半期報告書」の一般職員作成(全日本民医連職員用HP)
- 12月21日(火)「平成28年度厚労省事業」中間報告書提出<2017年>
- 1月10日(火)「平成28年度厚労省事業」中間報告書に関する厚労省ヒヤリング
- 1月13日(金)「QI指標の測定方法の留意点と改善の事例集V.1」の発行・配布
- 1月17日(火)「QI推進事業活用資料集」の発行・配布
- 1月18日(水)「民医連QI推進事業・指標の定義解釈Q & A.V7-1発行
- 1月30日(月)民医連QI委員会事務局会議
- 2月20日(月)「民医連の医療の質の向上へ向けて－民医連載パンフレット」発行
- 2月25日(土)第4回QI委員会(第4回QI医療指標評価委員会)の開催
- 2月25日(土)「民医連QI推進事業・指標の定義解釈Q & A.V7-2」発行
- 3月～4月28日(金)2016年QI推進事業報告書「詳細版」「概要版」の作成・一般公開、「平成28年度厚労省事業」最終報告書作成・提出